

大岡春卜の草花図研究 —古画学習と大坂の本草学に着目して—

波瀬山 祥子

■活動内容

大岡春卜（1680～1763）は、18 世紀の大坂を代表する画家である。春卜が出版した絵手本類について評価が高く、大坂の本草学者である木村兼葭堂や「奇想の画家」として著名な伊藤若冲ら、後世に多大な影響を与えたことで注目されるが、春卜の画業の全体像についての基礎研究は十分とはいえない。本活動では、春卜が生涯に渡って描いた「草花」を主題とする肉筆画や画譜・絵手本の挿絵を主な研究対象としその画業の一端を明らかにすることを目標にした。作品の実見調査、研究発表や学術論文の執筆、大坂画壇に関するシンポジウム、ワークショップを実施した。

■コンセプト・ねらい

春卜作品は、幸い申請者が拠点を置く大阪（また関西圏）の寺社や旧家の制作当初の環境とともに伝わるもの、国内外の美術館・博物館が所蔵する作品が複数あるが、良好な図版が少ないため「実見調査」に基づく研究をコンセプトとした。また、春卜作品を、地域特有の文化や風俗、地理的な観点、人間関係など、多角的な視点から理解を深めることをねらった。

■活動実績

2024 年 5 月 25 日

美術史学会全国大会での研究発表@愛知芸術文化センター

口頭発表「大岡春卜の草花図と『明朝紫硯』」

2024 年 7 月 16 日

広島海見える杜美術館で春卜関連作品の実見

2024 年 7 月 24 日

2024 体験！子どもミュージアム@大阪大学

「江戸時代の絵手本を使って絵をかこう」対象：小学 3～6 年と保護者

2024 年 10 月 27～28 日

東京国立国会図書館・東京都立図書館・慶應義塾大学附属ス道文庫等での春卜と関連資料の調査

2024 年 12 月 21 日

絵入本学会 絵入本ワークショップでの研究発表@韓国・蔚山大学校

口頭発表「大岡春卜と朝鮮通信使—『家彪集』の画題をめぐって」

2025 年 1 月 13～14 日

フランス・ギメ東洋美術館での春卜絵手本の調査、フランス国立図書館での春卜の絵手本調査

2025 年 2 月 15 日

シンポジウム「船場と美術」@大阪美術倶楽部

2025 年 2 月 27 日

富田林市・旧杉山家住宅に春卜欄間についての解説パネル設置

2025 年 3 月 12 日

大阪府内・個人蔵の春卜作品の調査

2025 年 3 月 23 日

講演会「近世大阪の画家 大岡春卜と旧杉山家住宅－欄間のデザインを中心に」

於寺内町センター・旧杉山家住宅

■成果・効果

①学術研究活動：

美術史学会での発表は、これまで不明とされてきた『明朝紫硯』題詩の典拠について、荻生徂徠が影響を受けた王世貞の詩集『弇州山人四部稿』であることを示し、18 世紀前期の大坂における古文辞学に関する人々と、春卜との関わりを提示することができた。

絵入本学会では、春卜が朝鮮通信使と交流を持って出版した挿絵入りの本の内容や画題について紹介し、春卜の国際的な活動を紹介することができた。また、資料調査では、未公開や新出の肉筆作品、フランス国立図書館で初版本の『明朝紫硯』を実見できたことも大きな収穫である。

②アウトリーチ活動

「江戸時代の絵手本を使って絵をかこう！」というイベントでは、親子参加型にしたことで、幅広い世代に江戸時代の絵手本の存在や役割を知ってもらうことができた。また、実物の絵手本を手にとってもらうことで、江戸時代の本を身近に感じてもらうこともできたと感じる。

大阪美術倶楽部で開催したシンポジウムでは、フランスでの調査成果を報告した。また、近世から近代以降の大阪の美術や文化に詳しい研究者や出版関係者を招き、幅広い視点で大阪画壇の特徴について議論することができた。

旧杉山家住宅にある春卜デザインの欄間については、これまであまり存在が知られていなかったが、住宅の学芸員の協力を得て解説パネルを設置することができた。また、設置を記念して講演会を開催し、地域住民に関心を持っていただくことができた。

■今後の展開

本財団の助成を受けての活動は終了したが、大岡春卜の研究は今後も継続していく。まずは、助成者自身が今年度 6 月上旬に本活動での研究成果を踏まえた博士論文を提出し、最終的には 1 冊の本として出版する予定である。また、昨年度中に実見できなかった春卜の資料も継続して調査を進める。助成者は、今年度は芳泉文化財団の助成「アベノバシ半径 2km プロジェクト」（代表：船越幹央）の一員として加わるが、対象圏内に春卜の菩提寺「光明寺」があるため本プロジェクトにおいても、春卜を絡めたアウトリーチ活動を進めていきたいと考えている。

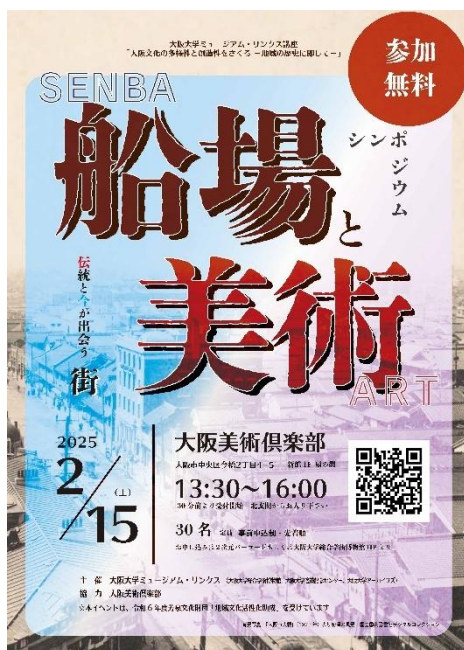
また、旧杉山家住宅では欄間の件から発展して、令和 7 年度に春卜に関するパネル展示を行うと伺っており、助成者も何らかの形で協力していきたいと考えている。直近では、旧杉山家住宅の学芸員と尼崎市・本興寺が所蔵する春卜の障壁画を調査する予定である。



2024 年 7 月 24 日親子向けワークショップ「江戸時代の絵手本を使って絵をかこう！」の様子



2024 年～2025 年にかけて調査した春卜資料の一例



2025 年 2 月 15 日大阪美術倶楽部でのシンポジウムの様子

